

こやのせだより

「あきらめない！」
少しを、次々と、時間内に
「できるを重ねる」

自信

平成30年9月3日
北九州市立木屋瀬小学校
校長 瀧上 正彦

元気な声に戻ってきた！

久々に子どもたちの元気な声に戻ってきました。夏休み中に頑張った宿題や大きな作品を抱えて、「ふうふう」いいながら登校する子どもたちの姿は、とても愛らしく感じました。

始業式では、プロジェクターに写真を写しだして、1学期に挨拶や掃除、そろえることなどを頑張ったことを評価しました。また、真剣な表情で学習している姿や、ノートの記録なども紹介しました。未来に向かって成長するために2学期も引き続き「かくれたチカラ(土台)」と「できるを重ねること(学習)」を頑張ろうと励ましました。

残暑厳しい日が続きます。学校では熱中症や食中毒など十分注意して学習に望みたいと思います。お茶の準備や手洗い等、ご家庭のご協力もお願いいたします。



◎ 南部6校小学校相撲大会 団体優勝

7月28日(土)南部地区相撲大会が行なわれました。団体の部優勝、個人6年男準優勝落石、6年女3位大田、5年3位石橋でした。暑い中毎日昼休み、放課後、夏休みまで練習頑張りました。



◎ 長崎街道宿場サミット

筑前の六宿の小学校が集まって、長崎街道宿場サミットが行なわれ5年生代表者が参加しました。こやのせカルタを使って、上手に木屋瀬の良さを発表しました。



◎ 生活がんばりカード 続けます

7月に1週間「生活がんばりカード」取組みましたが、「すごく良かった」「またやってほしい」と、嬉しいお言葉をたくさんいただきました。

2学期は、月に1度行ないます。お子様の自主的な生活習慣の定着にご活用ください。

◎ 名札着用を徹底します

2学期は名札着用の徹底に取り組みます。忘れた場合、名札のコピーを着用できるよう準備していますが、両面テープを使用します。ご了承下さい。

◎ 9月26日(土)土曜日授業中止

保育園運動会と重なっていました。申し訳ありません。延期日については、後日ご連絡いたします。

2学期のはじめに…

夏休みから2学期への切替が上手くいくために…

① 早寝・早起き

2学期の始めは、少し早く寝せることを心がけてください。そのためは、外で遊ぶ時間や夕食の時間、宿題をやる時間、テレビの時間なども少し早く終わらせるようにしましょう。

② 食生活の改善

好き嫌いが多い子どもは体の成長に影響が出るだけでなく、学習や友だち関係に好き嫌いが出てしまうことも…。食事の大切さ、嫌なことに立ち向かう大切さを教えてあげてください。

③ きまりの確認

9月のはじめに学習道具、文具用品等、家庭での確認をお願いします

シリーズ 子育て応援

～校長の独り言～

【母・周子さんの「子育て」】 BS朝日 体操 内村航平のキセキより

東京オリンピックが近づいています。体操男子と言えば内村選手です(私は…)。内村選手は北九州市生まれです。内村選手のご両親が体操教室を開いた長崎に引っ越す3歳までの間北九州市民でした。

さて、体操選手だったご両親が、借金をしてまで作った体育館兼自宅。ここで内村選手は、3歳の頃から自然と体操をするようになりました。ご両親は決して無理強いせず、いつも楽しく遊ばせるようにしたそうです。

【右脳トレーニング】…遊びの延長】

そんな遊びの延長線上に周子さんが力を入れる「右脳トレーニング」のプログラムがあります。「たとえば絵本をパッと開いて、そこになにが描かれていたか子どもに説明させるのです。訓練を続ければ、子どもはページを丸ごと一瞬で覚えます。他にもジグソーパズルをさせたり、絵本の読み聞かせをしたり。過剰なくらい気持ちを込めて読んでいました」

そしてある日…「航平が体操のビデオを繰り返し見ながら、紙に連続写真のようなコマ割りの絵を描きだしたんです。それがとても上手くて、一瞬、一瞬を正確に切り取ったようでした。技を覚えるのに効果的なやり方なんですけど、そういう才能はあったと思います」

【「食」…航平とのコミュニケーション】

極力、自分で作った「手料理」を子供に食べさせる。教室を運営している周子さんと父・和久さん。共働きという環境で、子供たちと一緒に食事をとることが少なかった周子さんは、それでも「手作り」に拘ったそうです。

それがおやつであっても自分の手で作ったものを、手紙とともに食卓や冷蔵庫に置いておく。「食」は、親子の大切なコミュニケーションだったのです。

高校から親元を離れ生活し始めた息子・航平。周子さんが一番心配したのは、食事でした。「手料理」を冷凍して、冷凍宅配便で息子に届けたほどです。とにかく、心配で息子にべったりでした。

【母・周子さんの「子育て」】

おさげ髪とちょっと派手な服装で応援する周子さんは、ちょっとした有名人です。しかし、その応援は半端ではありません。ただ、周子さんは言います。

「オリンピックは二の次。息子が元気に生きてくれるだけでいい」「どんなに忙しくても、子供が声をかけて来たら、必ず話をしました」「今、忙しいから、あとでね」とは、一度も言ったことはありません。忙しければ、忙しいほど、そうしなければならぬと私は思うんです。」

子供たちに「無償の愛」を注いできた周子さん。

子供たちにとって正しい接し方もしてきたし、良くない接し方をしてきたかもしれない。それでも、今がある。「子育てに、間違いなんてないんです。子供たちを愛してあげればいいんです」

【内村家の信条】

◎ 自分がされて嬉しいことを、子どもにしてあげよう

◎ 五輪より、元気で生きてくれるあなたが居ればよい